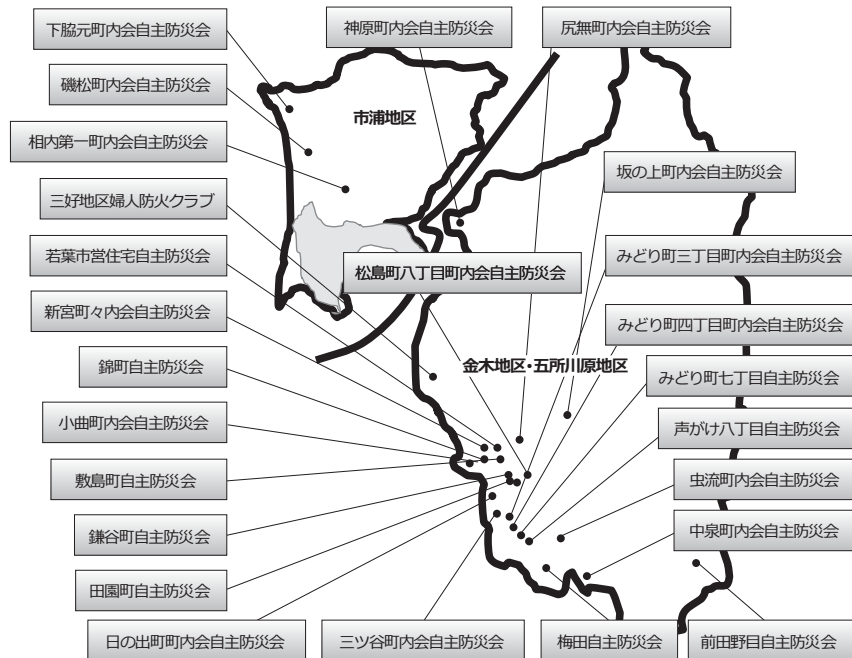


## 五所川原市内の自主防災組織(25団体) 平成26年7月31日現在

自主防災組織とは、住民一人ひとりが「自分の命は自分で守る」、そして「自分たちの地域は自分たちで守る」という「自助」「共助」の考え方にたって、自主的に防災活動を行う組織のことをいいます。自治会や町内会などの地域活動の組織を生かして結成されます。普段は防災知識の普及・啓発、防災訓練などの活動、災害時は初期消火活動、組織的な救助・救出など、非常に重要な役割を担う組織です。

あなたの街の自主防災組織を確認してみましょう。



### ●男女共同参画で地域防災力の活性化！

元氣な男性目線で、避難所の設置・運営が行われてしまいがちです。男女共同参画社会は「お互いを尊重し、認め合う社会」。高齢者や障がい者、女性や乳幼児、外国人など様々な立場からの要望をくみ上げ、誰もが安心できる地域防災活動に取り組むために、常日頃から家庭や地域、職場などで男女共同参画を实践し、自主防災組織などの地域活動へ積極的に参加しましょう。

#### 「西北男女共同参画まつりin つがる」開催!!

防災に関する講演会、避難所体験、非常食の試食など今回の「さんかく」の内容をちょっぴり体験できます。皆さん奮ってご参加ください。

日時：9月14日(日) 11時～16時

場所：イオンモールつがる柏 シャコちゃんコート

#### 編集後記

3年半前のあの地震が教えてくれたことはいっぱいあったのに、また前の平和ボケに戻りつつある私。まずはどこで大地震にあっても避難所で会えるよう、家族で話し合っておかなくちゃ。(K)

編集★さん  
委員5か  
名く

# さんかく

※この情報誌は市民からの公募による編集委員によって作成されています。女性(Female)と男性(Male)がともに支え合い、対等な立場で社会(Society)を形成することを願って!!  
第18号 企画課 男女共同参画室 (内線2156)

## 避難所生活を考える

東日本大震災から3年半が過ぎようとしています。大きな被害がなかった五所川原市ですが、いつどのような災害が再び起こるともできません。

ゆっくり考えられる今だからこそ、自宅で生活できなくなるほどの災害が起こったらどうなのか、じっくり考えてみてはどうでしょうか。

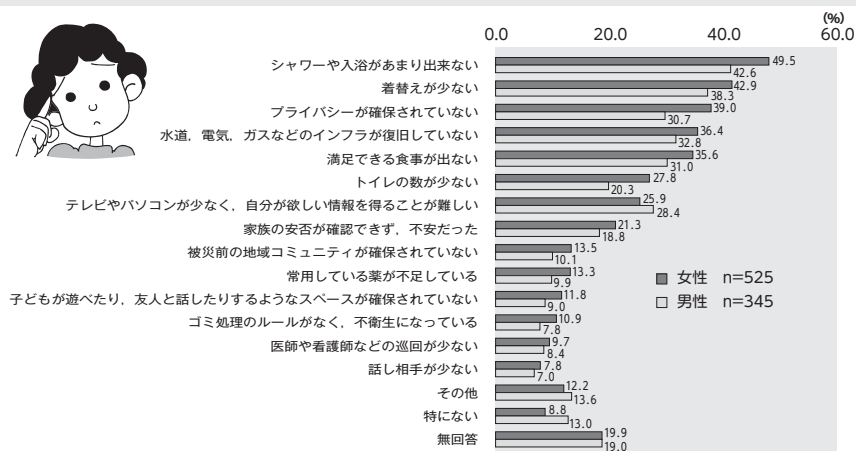
また、自宅に戻るまでの避難所生活では、これまでどのようなことが問題になっているのか、どのように生活していけばよいのかを考えてみましょう。

### ◆避難直後から困ることがあります・・・

最も多いのは「シャワーや入浴があまりできない」、「着替えが少ない」。

下表のように避難所生活をして初めて気付くことがたくさんあります。

普段の生活では当たり前だったことが、避難所生活では思うようにならないことがわかります。



●災害直後からの避難所での生活について困っていること(男女別、複数回答)

1. 内閣府・消防庁・気象庁共同調査「津波避難等に関する調査」(平成23年)を基に、内閣府男女共同参画局による男女別集計。
2. 調査対象は、岩手県、宮城県及び福島県の沿岸地域で県内避難をしている被災者870人(女性525人、男性345人)。調査は、仮設住宅・避難所を訪問し、面談方式で実施。
3. 調査時期は、平成23年7月上旬から下旬。